

令和5年度第2回健康うらやす21推進検討委員会議事録

1 開催日時 令和5年8月24日(木) 午後1時30分～午後2時45分

2 開催場所 健康センターリハビリルーム

3 出席者

(委員)

櫻井委員長、高橋副委員長、岡崎委員、影山委員、蛭名委員、宮川委員
岩井委員、佐々木委員、牧野委員、黒尾委員、今村委員、馬場委員
坂本委員

(事務局) 健康こども部 内田部長、吉泉次長

健康増進課 山崎課長、梅澤主幹、島崎係長、橋本、梅木
高柳、青木、三宅、小山

母子保健課 宇田川課長、手島課長補佐、鈴木、岩佐、徳留

4 議事の概要

- (1) 令和4年度事業評価について
- (2) 健康うらやす21(第3次)について
- (3) すこやか親子21、思春期について
- (4) その他

5 会議経過

(1) 令和4年度事業評価について、事務局から資料に基づく説明後、各委員からの意見は次のとおり。

(委員) いのちとこころの支援計画について、様々な事業があると思うが、結果的に自殺している方の数は減少しているものですか、それとも増えているのでしょうか。

(事務局) 基本的には減少しています。しかし、若者や女性については、若干増えています。同居していても自死を選択してしまう人の割合が多いことが浦安市の特徴であり、全国的にも同じような傾向が見られています。

(委員) 健康うらやす21について、浦安市として特に力を入れていることや、浦安市としてアピールしていること、また、良い結果がでていることがあれば教えていただけますか。

(事務局) この10年の取組の最終評価が来年度にあり、市民に向けて調査を行います。また、計画に記載されている各事業及び全体の評価も併せて実施します。現段階で、ここが浦安市の特徴だと言

える状況ではありませんが、浦安市自殺対策計画では、人と人をつなぐ、人と人がつながるという取組が特徴的で、積極的に取り組んできた内容であると考えています。浦安市では、事業評価についても人と人がつながるという点を意識してできたかという点を評価に盛り込んでおり、指標とは別で評価している点も特徴であると思います。

(委員長) 母子に関して、浦安市の合計特殊出生率がすごく低く、だからこそ子育てをしやすい環境を作るため、力を入れている気がしている。こころの健康に関して、小学校にスクールカウンセラーを置いており、それは一般的なことではないと思います。

(委員) 全校を把握しているわけではないですが、浦安小と浦安中には各校にいらっしゃいます。子どもたちが担任の先生を通さずに相談できる環境を整えていただいている、子どもたちのこころのケアをしていただいていると思っています。

(委員長) 子どもたちの反応は聞いていますか。

(委員) スクールカウンセラーの方と子ども自身が解決に向けて話し、それを補助していただく形で担任の先生方や教頭先生などがいろいろな形でケアをされています。私は実際のケアの仕方は把握していませんが、少し聞いただけですが、多くの子どもたちが相談をしていると聞きました。

(委員長) 小学生でスクールカウンセラーはというのはあまり無いことだと思います。高齢者に関して、高齢者の方自身が浦安市の高齢化が一気に上がってきていることを感じられているようです。私は、浦安市の高齢の方は、ともしっかりされている方が多いという印象を持っています。健康づくりのための新しい試みも熱心にやっただから事業評価もよかったのではないかと思います。新しいことにチャレンジしたい高齢者の方が結構いると感じました。浦安市は、がん検診が来年度から有料化と聞いていますが、国の指針外の前立腺がん検診を実施されていて、医療費の助成に対しても非常に積極的であると感じています。

(事務局) がん検診に関しては、浦安市がん対策の推進に関する条例に基づき、国の方針に則したかたちで、市民に利益があると見込まれる検診を実施している状況であり、来年度は、自己負担をしていただく形で進めています。本条例では、がん検診以外にも、がんの治療をされている方の見た目に関する補助など、アピアランスケアを行っていることが特徴となります。

(委員) 浦安は元町、中町、新町と分かれています。例えば、新町では、地元の方が少なく、他の地域から引っ越しされる若い家族が多かったりするため、コロナになり、人付き合いが減ってきて、こころを病んでしまったりする方が多いのではないかと思います。そういった地域によってばらつきとかはあるのでしょうか。

(事務局) 浦安市は元町、中町、新町と地域ごとに特色がありますが、自殺対策は、地域ごとに行っておりません。浦安市の場合は、単身赴任や転勤などで浦安市に転入されることもありますので、「人と人をつなぐ」をキーワードに事業を展開していくことが必要であると考えています。

(委員長) 転入されてきた方にも、浦安市民でいることの誇りとしてシビックプライドのようなものを持っていただけたらと思います。元町は東西線浦安駅もあり、利便性が良いため市外から転入されてきた方も多いいと思います。中町は長年浦安に住まわれている方が多いのではないのでしょうか。いずれにしても浦安市民で良かったと思っていただけたら、浦安の特徴を生かして、きめ細かく計画を立て、かたちにしていきたいと思っています。

(委員) 事業評価について、「予定以上」とか「予定通り」が8割以上を占めていますが、その中においても事業を進めていくにあたっての課題があると思います。これらの課題に対して今後どうしていくのかを話し合うことができれば有意義になるのではないかと思います。市として、課題や今後改善していきたい点など、認識していることがあれば教えていただければと思います。

(事務局) 現段階では、生活習慣病について、健康うらやす21の中の浦安市民の健康づくりの中でも上がっている朝食の欠食や、女性の多量飲酒について課題となっています。喫煙については啓発活動により喫煙率は下がっていると考えていますが、喫煙率が下がっている割に継続して喫煙している方も多いいと考えています。また、飲酒についても、慢性的なアルコールの依存傾向が強くなっている人の割合は変わらないため課題になっています。自殺対策については、重点課題である「子ども・若者対策」や「孤立・孤独対策」に関しては、自殺率は横ばいとなり、子ども・若者につきましては増加傾向にあることから、課題と考えています。今後の取組で何ができるかを皆さまにご意見を伺いながら一緒に検討してまいりたいと考えています。

(2) 健康うらやす21(第3次)について、事務局から資料に基づく説明後、各委員からの意見は次のとおり。

(委員) 社会環境の質の向上に関する目標という部分を国として力を入れてきているとのことでしたが、浦安市は海沿いの三番瀬や総合公園など、浦安の宝と思っています。浦安市はみんながいいと思ってくれてくれる場所であるため、社会環境というところではすごく特化している部分があると思います。市では、このような環境を生かして何かしていきたいということは具体的あるのでしょうか。

(事務局) 先ほど事業評価でもあったように、舞浜地区のランニングコースを整備するという事業については、第2次でも歩きたくなる街づくりとして進めています。第3次でも自然と運動したくなるような仕掛けづくりが目標に入っています。しかし、第3次の内容については、これから決めることとなっております。第2次においても、健康遊具の設置について対象としています。様々な場所に健康遊具がありますが、健康遊具がどのくらい使われているかを調査したところ、あまり利用されていないという結果でした。このようなところも第3次に反映させていきたいと考えています。

(3) すこやか親子21、思春期について、事務局から資料に基づく説明後、各委員からの意見は次のとおり。

(委員長) 児童虐待のない社会の構築で、子どもを虐待していると思う親の割合が65.1%から29.6%と大きく減少していますが、質問項目の定義が異なるなど考えられる要因はありますか。

(事務局) 以前は、自分は虐待と無関係と捉える方が多かったように思いますが、今は強い言葉で怒鳴ることや、少し叩いてしまうことも虐待として扱われることを健診の際に伝えるようにしており、市民の虐待に関する意識が変わっていることが要因と考えています。

(委員長) 虐待に関して、以前はセンシティブになりすぎていた。今はしつけと虐待の線引きの理解が深まってきたと思います。浦安市は虐待による死亡数は増えているのでしょうか。減っているのでしょうか。

(事務局) 浦安市では虐待による死亡はありません。

(委員) アンケートの内容は1歳6カ月児健診や3歳児健診の時に「わ

が子を虐待していますか？」という質問だったのですか。

(事務局) 例えば、激しく怒鳴る、口をふさぐ、強くたたく、子どもを置いて外出するなどの項目を設けています。

(委員) その中で、市としてこれが虐待に当てはまると判断した数が先ほどの結果なのですか。

(事務局) 項目に1つでも当てはまっている件数を集計しております。

(委員) 虐待に限らず、アンケートは匿名なのですか。

(事務局) 1歳6カ月児健診、3歳児健診の問診票の裏面に設けております。健診の流れの中で、皆様にご記入いただいている、項目に該当する方のうち、お話を聞く必要がある場合には保健師が面接をしています。また、辛そうな場合には子ども家庭支援センターに相談しています。

(委員) お母さん方は記名式だと言にくい部分もあると思いますし、もしかしたら分かってはいるけどやってしまうという方もいると思いますので、匿名のアンケートもあれば良いと思いました。

(委員) インフルエンザ予防接種を受ける時も補助はいただけるのですが、個別で予約を行い、医療機関で予防接種を受けていますが、その場合、家庭により予防接種状況が偏ってしまうように思います。集団予防接種の実施について、学校に相談したところ、学校の時間内に受けると、受けた子と受けていない子が分かってしまうため、配慮に欠けてしまうと指摘がありました。それならば、学校がお休みの土曜日に、希望された方が学校で予防接種ができるような体制を整えることができれば、接種率が上がると思います。

(委員) 新生児訪問、1歳6カ月児健診、3歳児健診の訪問率や健診受診率は100%に近いのでしょうか。虐待などの問題を抱えているお母さんはそのような場にも出てきづらい方もいるため、つながりを作っていく必要があると思います。そのつながりを作っていくためにも、行政にもお力添えいただけるといいと感じます。きちんと健診等を受診していただくことが1番虐待や育てにくさを減らす上で重要だと思います。

(事務局) 受診率は95%程度となります。100%ではないため、皆様のご意見を参考にしながら、引き続き取り組んでいきます。

(委員長) 市を発展させるためには1人でも取り残さないように健やかに育てていただきたいと思います。

(4) その他について、各委員からの意見は次のとおり。

(委員) 若い方で多くの方が力を貸すと申し出てくださっている方がいますので、上手く市民の力を活用いただければと思います。

(委員) 第3次の施策に向けた市の予算について伺いたいです。それによって、優先順位をつけなければならないものがあるのではないのでしょうか。

(事務局) 具体的な施策は、次の段階となるため、いつまでにどのように実施するかについては、今後検討していきたいと思っています。

(委員) 健康うらやす21には教育委員会は関わらないのですか。

(事務局) 学童期であれば、教育委員会の指導課や保健体育安全課が担当となるため、児童の健康づくり事業に関わっていただきたいと考えています。

(委員) いじめ、自殺、食育の話など、子どものことを良く把握している教育委員会に関わっていただきたいと思っています。

(事務局) 第3次に向けて市民の意識調査を行っていくにあたり、思春期の世代に特化したアンケート調査を実施したいと考えておりますので、そこで、他の課や市民の方々と連携を図っていただけらとと考えています。

(委員) 浦安市のメンタルヘルスに対する取り組みは、子どもの発達障がい施設など良い意味で特殊であると思います。家に引きこもっている人もとても多いため、活用できていると思います。もう少し言えば、公的に働く施設があればより良くなると考えています。自殺については、浦安は比較的若者の自殺率が高く、都市部に多い傾向の自殺パターンとなっています。どのように若者たちに啓蒙していくかが大きな課題となります。また、自殺をして助かった方に対して、強力に働きかけることはエビデンスがあり、自殺再起との予防線を解明することが大切である。

(委員長) 人とのつながりがコロナの関係で希薄になったのは事実ですので、今後、健康うらやす21に反映させていければよいと思います。

本日は、以上で閉会します。